

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

■検査要項

項目コード	—
検査項目名	抗 MDA5 抗体
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵
検査方法	EIA
基準値	陰性(—) インデックス値 32 未満
所要日数	4~11日
実施料	未収載
検査場所	LSI メディエンス (→1)

■受託開始日

●2015年12月24日(木)

以上

抗 MDA5抗体

皮膚筋炎 (dermatomyositis ; DM) は自己免疫による代表的な炎症性皮膚疾患であり、ヘリオトロープ疹やゴットロン徴候を始めとした多彩な臨床症状を示すことで知られています。多発性筋炎/皮膚筋炎 (PM/DM) としての患者数は国内に約2万人、男女比はおよそ1:3、中年以降での発症が多いとされています。

皮膚症状のみで臨床的に6ヵ月以上筋症状が認められない皮膚筋炎患者を無筋症性 DM (clinically amyopathic dermatomyositis ; CADM) と呼び、DMI に特徴的な皮疹を有してはいますが、筋力低下などの症状に乏しく、CK や筋電図等の検査所見にも異常を認めることが少ないとされています。近年、免疫沈降法により CADM 患者の血清中に分子量 140kDa のバンドが認められたことから、この自己抗体は抗 CADM-140 抗体と呼称されました。その後、この抗体の対応抗原が melanoma differentiation-associated gene 5 (MDA5) であることが判明し、抗 MDA5 抗体と命名されたため、抗 CADM-140 / MDA5 抗体と呼ばれることがあります。

DM 患者と比較し、抗 MDA5 抗体陽性 (CADM) 患者は高率に急性間質性肺炎 (AIP) を併発し、その中の多くは急速に呼吸困難が進行する急速進行性間質性肺炎 (rapidly progressive ILD : RP-ILD) とされています。RP-ILD は数日から数週間で急速に呼吸不全が進行し、強力なステロイド剤や免疫抑制剤投与などに対しても治療抵抗性で予後不良とされています。

RP-ILD 合併 CADM の報告例は日本を含む東アジア地域に多く、欧米諸国においても近年同様の報告が認められています。

抗 MDA5 抗体は CADM に特異的に認められる自己抗体で、他の自己免疫疾患ではほとんど検出されず、成人 DMI における出現頻度は 10~25% とされています。

また、抗 MDA5 抗体陽性の患者における RP-ILD の合併頻度は 50~70% であり、治療前の抗体価が予後に関連があることを示唆する発表や、抗体価の推移が経過観察に有用との報告もあり、今後の研究が待たれます。

■参考文献

佐藤慎二：炎症と免疫 22:443-447, 2014.